Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-04-27

Psychological state is related to remission of Boolean-based definition of patient global assessment in patients with rheumatoid arthritis

Fusama, Mie

(Degree)
博士（保健学）

(Date of Degree)
2015-03-25

(Date of Publication)
2016-03-01

(Resource Type)
doctoral thesis

(Report Number)
甲第6310号

(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1006310

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

（様式３）

論文内容の要旨

専攻領域　リハビリテーション科学

専攻分野　運動機能障害学

氏　　名　房間　美恵

論文題目（外国語の場合は，その和訳を（　）を付して併記すること。）

Psychological state is related to remission of Boolean-based definition of patient global assessment in patients with rheumatoid arthritis

（Boolean 基準における患者全般改善評価の寛解には関節リウマチ患者の心理状態が関連する）

論文内容の要旨（1,000字～2,000字でまとめること。）

[背景] 関節リウマチ（RA）患者において疾患活動性が改善しても患者全般改善評価（Patient Global Assessment: PGA）が改善しない場合がしばしば見られる。先行研究においても PGA は単に RA の疾患活動性だけに影響されるわけではないこと、また、寛解を達成するための limiting factor であることが報告されている。一方、RA 患者では、抑うつや不安といった心理状態の良くない患者が健常人と比較して多いことが知られているが、心理状態と PGA の関連についてはほとんど評価されていない。

[目的] RA 患者において、心理状態が PGA 寛解と関連するか検討すること。

[方法] 同意を得た RA 患者のうち、Boolean 寛解基準に含まれる 4 項目のうち腫脹関節点数（SJC）≦1、圧痛関節点数(TJC) ≦1、CRP ≦1mg/dl の 3 項目を満たす患者を対象とした。これらの患者を PGA 寛解群（PGA≦1cm）と PGA 非寛解群（PGA>1cm）の 2 群に分け、2 群間で心理状態の比較を行った。

心理面の評価については、Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS)を用いて不安(HADS-A)と抑うつ状態（HADS-D)を評価した。さらに Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D)でも抑うつ状態を調べた。

HADS-A、HADS-D、CES-D のそれぞれについて PGA 寛解群と PGA 非寛解群の 2 群間で比較した。統計解析は Wilcoxon rank-sum test および Peason Chi-square test、Fisher's exact test、Pearson's product moment correlation coefficient、t-test (Welch's method). を用いた。

[結果] 112 名の対象患者のうち SJC≦1、TJC≦1、CRP≦1 を満たした患者は 78 名（男性 17 名、女性 61 名）であった。年齢や性別、罹病期間、Steinbrocker 分類の class および stage などの患者背景については PGA 寛解群(45 名)と PGA 非寛解群(33 名)の 2 群間に有意差はみられなかった。心理面の評価について、2 群間で比較したところ、HADS-A は PGA 寛解群の方が PGA 非寛解群に比べて有意に低値であった(median [min-max]: 2.0[0-12] vs 4.0[0-15], p=0.017)。HADS-D も PGA 寛解群の方が有意に低い値を示した(median [min-max]: 1.0[0-12] vs 3.0 [0-16], p=0.007)。さらに CES-D についても PGA 寛解群の方が PGA 非寛解群より有意に低かった(median [min-max]: 9.0[0-27] vs 13.0[0-36], p=0.001)。

[考察] RA の疾患活動性が改善しているにも関わらず PGA 寛解に至らない患者では、Boolean 寛解を達成した患者に比べて心理面の評価が悪かった。RA 患者において、PGA 寛解、さらには真の寛解を達成するためには心理面の支援が重要である可能性が示唆された。

指導教員氏名：三浦靖史

（別紙１）

論文審査の結果の要旨

氏　名	房間　美恵		
論文題目	Psychological state is related to remission of Boolean-based definition of patient global assessment in patients with rheumatoid arthritis （Boolean基準における患者全般改善評価の寛解には関節リウマチ患者の心理状態が関連する）		
審査委員	区　分	職　名	氏　名
	主　査	准教授	三浦　靖史
	副　査	教授	柱本　照
	副　査	教授	宮脇　郁子
	副　査		印

要　旨

本研究は、関節リウマチ（RA）患者において、患者全般改善評価（Patient Global Assessment: PGA）は寛解達成の阻害因子となる一方、RA患者はしばしば抑うつや不安を呈することから、RA患者において心理状態とPGAが関連するかについて検討したものである。

方法として、同意を得たRA患者をPGA寛解群（PGA≦1cm）とPGA非寛解群（PGA>1cm）の2群に分け、Hospital Anxiety and Depression Scale（HADS）を用いて不安（HADS-A）と抑うつ状態（HADS-D）を、Center for Epidemiologic Studies Depression Scale（CES-D）で抑うつ状態を調べ、2群間で比較し統計学的に解析を行った。その結果、HADS-A、HADS-D、CES-Dのいずれも PGA寛解群の方がPGA非寛解群より有意に低かった。

このように、本研究は、PGA寛解に至らない患者では、Boolean 寛解を達成した患者に比べて心理面の評価が低かったことを明らかにした。

本研究は、RA患者の寛解達成について、その心理面での支援の必要性の根拠を研究したものであり、患者ケアの実践に重要な知見を得たものとして、価値ある集積であると認める。

よって，学位申請者の房間美恵は、博士（保健学）の学位を得る資格があると認める。

掲載論文名・著者名・掲載（予定）誌名・巻（号），頁，発行（予定）年を記入してください。

Psychological state is related to remission of Boolean-based definition of patient global assessment in patients with rheumatoid arthritis・M.Fusama, Y Miura, K Yukioka, T Kuroiwa, C Yukioka, M Inoue, T Nakanishi, N Murata, N Takai, K Higashi, T Kuritani, K Maeda, H Sano, M Yukioka, H Nakahara・Modern Rheumatology 25(5), page pending, 2015, DOI:10.3109/14397595.2015.1008955